

ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.03-01 NO.022 2011年1月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール:nanbu-kyokai@nifty.com

URL:<http://kawasaki-nanbu-kyokai.com>

「無駄な時間」

橋本幸夫

「寂しい所へ行って、しばらく休みなさい」(マルコ6:31)。

弟子たちが力いっぱい仕事をして戻って来て、キリストに自分たちの業績をとくとと話すくだりがあります。それを聞いたキリストは静かに言います。それが上記のみことばです。

忙しいと言うことは確かにありがたいことです。多くの場合それは健康であることの証拠でもあるから…。さらに忙しさは自分が必要とされていることと考えてもよいでしょう。そして、人は必要とされているとき生き甲斐を持つのです。

忙しいということのありがたさは、また自分のことを忘れていられるということにもあります。人間はともすると、自分の事を考えていれば幸せであるかのように思いがちだが、実は自分の事を忘れていられる方が幸せな事は経験した人にはわかるでしょう。実際、朝から晩まで自分の事しか考えられないとしたら息が詰まってしまうと言ってもよいでしょう。

だが、自分を忘れる事も大切だが忘れないことも大切です。忘れ方といってもいいでしょう。

ゆとりがあると物が見えてきます。一日中、電話、来客、会議と追われた身に、〈やっと一人になった〉という孤独は一刻千金の価値のあるものです。自分を取り戻す時間、自分をふりかえる時間、自分のいたらなさ、小ささに気づきながらその小さい者を愛して下さる神の無条件の愛を、ひたひたと感じる時間、そして必要は満たされて、傷は癒いやされないまでも包帯をまかれて、また現場に戻るのです。あやまちを神の前に詫び、次の日の決意をする時間、人間は強そうに見えて弱いものですものね。

樹を切るのに忙しすぎて斧をじっくり見る暇がなかったということのありませんように。斧が磨かれているからこそ切れることを忘れてはなりません。

一日の仕事の終わりに斧を点検して油をさしいたわってやること、つまり、自分をまた、次の伐採の仕事に備えるべく心も身体も休ませてやることへの時間を惜しみ、怠る時いつか斧は使いものにならなくなっています。

どんなに忙しくても、一日の中、五分でも十分でも静かな時間、一見〈無駄な時間〉をつくらねばなりません。